



ほくの名前は、トム。

ほくは、犬だ。そして、ほくは今、家出をするところだ。

さよなら、今日子。

さよなら、ママとパパ。

さよなら、ほくの家。

さよなら、近所の飼い犬たち。

ほくがいなくなったら、深くなげき悲しんでくれ。

ほくは今、パパがくれた赤い首輪からぬげだし、ママに

気づかれないようにこっそりと、家の門から外に出た。

ほくが持っているのは、小さなエマだけ。ほかにはなん

にもない。だけど、それでいいんだ。

エマは言った。

「およしなさいよ、トムったら。こんなことをしたって、

なんの解決にもならないわ」

ほくも言った。

「おうおおうおおう」

「なにを言っているのか、ぜんぜんわからないわ。あたしを下におろしてちょうだいよ」

ちよっぴり厳しく、とびきりやさしく、エマはそう言っ

た。

そこでほくは、くわえていたエマを口から地面におろし

た。

「解決にならないだなんて、そんなことはないさ。ほくには新しい人生を始めることが必要なんだ。そう、きみといっしょに」

「ふうん。そうなの……」